

地域をつなぐ架け橋

寄り添い、見守ること

地 域支え合いセンターは被災者のお困り事を伺い、生活再建に対するサポートを行う組織です。センター長以下、主任生活支援員、生活支援相談員、生活支援補助員、事務員で構成され、情報の提供や専門機関へのつなぎの役割を行います。

主 な活動は三つあります。一つ目は生活状況や心配ごとを聞いて、専門機関や行政につなぐ「個人支援」です。そのために、日頃から訪問での声かけや見守り活動を行います。二つ目は、みんなの家で行っているサロンやイベント等の「集団支援」です。住民同士の交流の場づくりをボランティアやNPO団体と協力して行います。また活動で把握した課題を関係機関と共有し、解決に導けるよう連携していく。これが三つ目の活動です。

御 船町の地域支え合いセンターは、社会福祉協議会、公益財団法人熊本YMCAくまもと健康支援研究所の3団体で構成されており、それぞれが担当仮設住宅等を訪問しています。

セ ンター相談員の仕事は、まず相手の話を聞くところから始まります。震災後つらかったこと、大変だったことなど、心のため込んでいることとお話して頂けるよう努めています。また「助けてほしい」と言葉に出せない方や「どうしてよいかわからない」方が地域にはまだおられます。情報が届いてない方には提供し、時には関係機関に付き添う事もあります。センターの関わりで「少しだが先が見えた」と声を頂くと私達もお役に立てた喜びを感じます。

心がけていることは、応急仮設住宅と地域との隔たりをなくすことです。みんなの家でのサロンや移動販売に地域の方も利用して頂けるよう声をかけています。いずれは地元安心して帰って頂けるように、地域とのつながりを切らさないことを大切にしています。

今後は、みなし仮設住宅への訪問や町へ帰って来たいという気持ちを支えるイベントなどを地域住民の方たちと考えて実行していきたいです。地域支え合いセンターは、これからも被災者の声を大切に活動していきます。



御船町地域支え合いセンター
社会福祉協議会 主任生活支援員

中島 直子 さん



行政や県支え合いセンターなどの関係機関で連携会議を行っています。



くまもと健康支援研究所が担当している、ふれあい広場第2仮設団地では、みなでお昼ご飯を持ち寄って食べます。音楽をかけ、色んなことを話しながら、楽しいひとときを過ごしています。

●3つの団体が訪問しています

社会福祉協議会	今城仮設、東小坂仮設、旧七滝中仮設、田代東部仮設、木倉仮設、七滝仮設、玉虫仮設、みなし仮設住宅、町各地域
公益財団法人 熊本YMCA	南木倉仮設、西木倉仮設、西往還仮設、落合仮設、滝川仮設
くまもと健康支援研究所	ふれあい1・2仮設、小坂仮設、陣仮設、下高野1・2仮設、甘木仮設、高木1・2仮設

人と人が出会い、つながりができる



つながることで笑顔が生まれるー



高野 和子さん（滝尾）

8月中旬からみなし仮設住宅に住んでいます。前震のときは、市内にいた息子がすぐに迎えに来て一時避難。本震が起きたときは、スポーツセンターや友人宅、自宅を行き来しました。日々まともな食事できない、トイレできない中、自宅は電気は消え、至るところにビビが入り、お風呂のお湯ももらいながら日々をしのぎました。地域支え合いセンターの職員の方々には、市内まで来てくださり、気を遣っていただきありがとうございます。御船町の情報をいただいたり、御船の友人からメッセージをいただくなど、胸が熱くなりました。故郷の御船町が昔のような活気が戻ることをお祈りします。